



南魚沼市

第1回臨時会／6月定例会号

5月15日／6月5日～6月16日

議会だより

No.75

2023年8月1日発行

発行責任者：南魚沼市議会議長 塩谷 寿雄
編集：議会広報編集特別委員会



目次

今回の表紙は、塩沢織の木目込パッチワークです。

令和5年第1回臨時会 2～3ページ
令和5年6月定例会 4～5ページ

一般質問 18名が市政を質す 6～14ページ
政務活動費報告 15ページ

令和5年度 一般会計補正予算(第2号)

4億1,272万7,000円追加

テーマ【物価高騰対策】

主な補正内容

農業者への支援

農業者等緊急支援事業費
3,000万円

対 象

- ・園芸…10アール当たり4,000円
- ・畜産…豚3,500円/頭
牛1万9,000円/頭
鶏250円/羽
- ・水産…原油・物価上昇分の4割



障がい者、高齢者施設への支援

- ・障がい者施設緊急支援事業費
1,860万円
- ・高齢者施設緊急支援事業費
6,600万円

高校生・大学生の保護者への支援

高校・大学生等保護者生活支援事業費

8,050万円

学生1人当たり3万円の支援



保育園への支援

- ・保育園等給食費負担軽減支援事業費
950万円
- ・保育園等光熱費負担軽減支援事業費
630万円

低所得者への支援

住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業

2億268万6,000円

住民税非課税世帯1世帯当たり3万円支給



Q 園芸については対象者全員の申請を前提に予算組みしているのか。また、農業再生協議会の事務経費はどれくらいか。

A 予算的には、園芸の対象者770経営体全てを対象としている。事務経費は、往復の封筒代や郵送費等で30万円ほど予定している。

● 農業者等緊急支援事業費 3,000万円

Q 保護者に対し、子ども1人当たり3万円の支援を行うわけだが、高校・大学生等とは、具体的にどのような範囲の学校を指すのか。

A 学校教育法に定める大学、短期大学、専修学校、高等専門学校、高等学校である。

● 高校・大学生等保護者生活支援事業費 8,050万円

Q 医師会への接種協力金2,400万円は、市独自の財源で実施するが、どれくらいの接種率で算定しているのか。

A なかなか把握しきれない部分があるので、今までの接種内容から推計している。

Q 医師会への接種協力金は、他の自治体ではあまりないようだが、当市の医師会が特に困っているような実態があって支給するのか。

A 医師会の業務量も非常に多くなってきたことから、市独自の判断で実施している。

● 予防対策事業費 2億300万円

◇ 第6号報告 令和5年度一般会計補正予算(第1号)
2億6,283万5千円追加

物価高騰に対するひとり親世帯への特別給付金の支給に必要な経費、令和5年度以降のコロナワクチンの追加接種に関する経費。

令和5年第1回臨時会

令和5年第1回臨時会は、5月15日に開かれました。令和5年度一般会計補正予算(第2号)では、主に物価高騰に対する国からの交付金配分額が示され、この交付金を活用して南魚沼市独自の緊急に必要な支援費用などの補正予算を審議しました。

審議内容、Q & Aは一部のみ掲載しています。



録画映像配信をご覧ください

令和5年第1回臨時会の全議決結果

(傍聴者 9人)

議決結果の詳細は
ウェブサイトでご覧いただけます→

議案番号	市長提出議案	議決結果
第2号報告	専決処分した事件の承認について(令和4年度南魚沼市一般会計補正予算(第12号))	承認(賛成多数)
第3号報告	専決処分した事件の承認について(南魚沼市税条例の一部改正について)	承認(全会一致)
第4号報告	専決処分した事件の承認について(南魚沼市国民健康保険税条例の一部改正について)	承認(全会一致)
第5号報告	専決処分した事件の承認について(南魚沼市介護保険条例の一部改正について)	承認(全会一致)
第6号報告	専決処分した事件の承認について(令和5年度南魚沼市一般会計補正予算(第1号))	承認(賛成多数)
第34号議案	令和5年度南魚沼市一般会計補正予算(第2号)	可決(全会一致)
第35号議案	財産の取得について(消第1号 小型動力ポンプ付軽積載車(消防団仕様)7台)	可決(賛成多数)
第36号議案	財産の取得について(消第3号 資機材搬送車 1台)	可決(全会一致)
第37号議案	財産の取得について(建備第1号 ロータリ除雪車(2.6m級)1台)	可決(全会一致)
第38号議案	財産の取得について(建備第2号 ロータリ除雪車(2.6m級)1台)	可決(全会一致)
第39号議案	工事請負契約の締結について(庁除工第1号 旧五日町小学校解体工事)	可決(賛成多数)
第40号議案	工事請負契約の締結について(長改小第1号 北辰小学校長寿命化改良(建築)工事)	可決(全会一致)

賛否
一覧表

起立採決等によりそれぞれの賛否が明らかにされ、かつ、賛否が分かれた議案について詳細を表記しています。

○=賛成 ×=反対 棄=棄権 欠=欠席 除=除斥

※議長は採決に加わりませんが、賛否が同数の場合は議長裁決となります。

※除斥(じょせき)とは、議案と一定の利害を有する議員は、議案審議に参加できない制度です。

会派	南魚みらいクラブ								歩む会			市民クラブ				未来創政会			日本共産党議員団		無所属	
氏名 議案	目黒哲也	吉田光利	塩川裕紀	清塚武敏	桑原圭美	小澤実	黒滝松男	関常幸	勝又貞夫	鈴木一	塩谷寿雄	牧野晶	梅沢道男	田中せつ子	佐藤剛	寺口友彦	大平剛	永井拓三	中沢一博	川辺きのい	中沢道夫	黒岩揺光
第2号報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
第6号報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
第35号議案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
第39号議案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

②新ごみ処理施設建設の進捗状況について

○期日 令和5年4月18日

①健診施設等建設事業基本設計の進捗状況について

社会厚生委員会

②ふるさと里山整備緊急事業について

○期日 令和5年4月27日

①農業集落排水施設について(現地調査含む)

産業建設委員会

②学童保育の現状と課題について

(現地調査含む)

○期日 令和5年4月24日

①子ども・若者相談支援センターの運営状況について(現地調査含む)

総務文教委員会

常任委員会
管内調査報告

令和5年度 一般会計補正予算(第3号)

4億986万円追加

令和5年
6月定例会

6月定例会は、6月5日から16日に開かれました。
主に補正予算や農業委員会委員の任命について審議を行いました。

審議内容、Q & Aは一部のみ掲載しています。

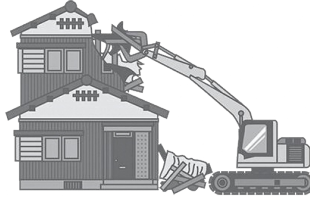


録画映像配信を
ご覧いただけます

主な補正内容

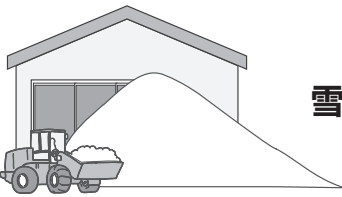
雇用の
マッチング

- 雇用対策事業費 885万5,000円
- Q インターネットを介して雇用主と労働者のマッチングを行うサービスを、今年から立ち上げるということだが、どの程度の成果を見込んでいるか。
- A おおむね40社ぐらいをリストアップして、募集する成果については、約700件を目指す。



空家対策

- 防災補助・負担金事業 100万円
- Q 空家等除却事業補助金の対象基準は。
- A 一年以上使用されていない、または一年以上使用される見込みがない住居が対象となる。また市内に本店・支店・営業所等を有する事業者が施工し、空き家の解体とそれに付随する工作物などを全て除去して更地とすることも条件となる。



雪資源活用

- 雪資源活用事業費 400万円
- Q 雪冷熱システムの実証実験は、どのように進めるのか。
- A 仮設テントで1か月程度を考えている。興味を持ってもらえるよう、これから具体的にによりよい方法を考えていく。



婚活支援

- 少子化対策支援事業費 1,211万円
- Q 結婚活動支援事業補助金は、ハートマッチにいがた登録料の補助とのことであるが、いくら補助するのか。また、新たな事業だが、どのように広報するのか。
- A 登録料の全額に当たる1万1,000円掛ける人数分で予算を組んだ。また広報活動は、ウェブサイトを中心に周知していく。

奨学金基金条例が制定されました

(第42号議案 南魚沼市給付型奨学金基金条例の制定について)

令和4年9月、奨学金を目的とした5,000万円の指定寄附があり、奨学金基金条例を制定しました。

寄附者ご自身が奨学金を受けることができなかった過去から、奨学金事業に使用してほしいということで、返還義務のない給付型の制度を創設しました。

運用は、規則で定めることとしています。

奨学金の対象者等は、市報8月1日号をご覧ください。

令和5年6月定例会の全議決結果

(傍聴者 延べ54人)

議決結果の詳細は

ウェブサイトでご覧いただけます→



議案番号	市長提出議案	議決結果
第41号議案	令和5年度南魚沼市一般会計補正予算（第3号）	可決（賛成多数）
第42号議案	南魚沼市給付型奨学金基金条例の制定について	可決（全会一致）
第43号議案	南魚沼市印鑑条例の一部改正について	可決（全会一致）
第44号議案	南魚沼市特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正について	可決（全会一致）
第45号議案	南魚沼市税条例の一部改正について	可決（全会一致）
第46号議案	南魚沼市手数料徴収条例の一部改正について	可決（全会一致）
第47号議案	南魚沼市学齢児童生徒の就学援助条例の一部改正について	可決（全会一致）
第48号議案	南魚沼市火災予防条例の一部改正について	可決（全会一致）
第49号～ 第67号議案	南魚沼市農業委員会委員の任命について（19議案）	同意（全会一致）
第68号～ 第70号議案	人権擁護委員の候補者の推薦について（3議案）	同意（全会一致）
第71号議案	財産区管理会財産区管理委員の選任について（大字塩沢財産区）	同意（全会一致）
議案番号	請願	議決結果
請願第2号	「新潟の最賃は信越・北陸・関東13都県中12位の低さである。抜本的に底上げするための意見書採択を求める」請願書	不採択（賛成少数）
請願第3号	「消費税インボイス制度の実施中止を求める」意見書を国に提出することを求める請願書	不採択（賛成少数）
請願第4号	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願書	採択（全会一致）
議案番号	議員発議	議決結果
発議第4号	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の提出について	可決（全会一致）

賛否
一覧表

起立採決等によりそれぞれの賛否が明らかにされ、かつ、賛否が分かれた議案について詳細を表記しています。

○＝賛成 ×＝反対 棄＝棄権 欠＝欠席 除＝除斥

※議長は採決に加わりませんが、賛否が同数の場合は議長裁決となります。

※除斥（じょせき）とは、議案と一定の利害を有する議員は、議案審議に参与できない制度です。

会派	南魚みらいクラブ								歩む会			市民クラブ				未来創政会			日本共産党議員団		無所属	
氏名 議案	目黒哲也	吉田光利	塩川裕紀	清塚武敏	桑原圭美	小澤実	黒滝松男	関常幸	勝又貞夫	鈴木一	塩谷寿雄	牧野晶	梅沢道男	田中せつ子	佐藤剛	寺口友彦	大平剛	永井拓三	中沢一博	川辺きのい	中沢道夫	黒岩揺光
第41号議案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
請願第2号	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	※	×	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×
請願第3号	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	※	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○



南魚みらいクラブ

塩川裕紀



買物弱者救済対策について

Q

今年5月、大巻地区、五十沢地区の食料品を取り扱う店舗が閉店した。頼りにしていた高齢者から悲痛な声が上がっている。車の運転ができない一人暮らしの高齢者のためにも、買物弱者救済対策が早急に必要だと考える。試験的に実施している移動販売車の現状は。

A

現在は、試験的段階が終わり、本格的に営業している状況になった。上田地区を巡回していたが、全く客が来ない行政区もあり、販売を一時中止したり、栃窪・岩之下地区でも販売を開始した。売上げや客足に波はあったが、一定のところで数字が安定してきた。買物の困難な地域の需要に添えてきている。

Q

民間の力を活用し、小売店誘致に真剣に取り組み考えは。

A

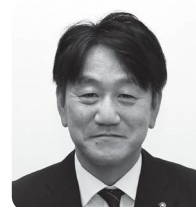
市への要望として、大型店舗の新設を願う声がある。大型店舗の出店は、買物に出向かなければならない点で高齢者の利便性には大きな影響はないが、地域の小売店の事業継続に影響がある。一番大切なのは、移動のための足の確保、配達サービス事業の支援ではないかと考えている。

Q

地元店舗へのサポートの考えは。

A

地元で努力されている店舗へのサポートは非常に重要なことだと考えるが、市内事業者に対するサポートは、主に商工会が行うことだと思う。補助金のような直接的な支援を市が継続してやり始めたら、やるわけにいかない。いろいろな事情を見ると、簡単ではないと考えている。



南魚みらいクラブ

目黒哲也



南魚沼市の地方創生の推進はいかに

Q

松井利夫氏の産業育成支援特別顧問選任後の具体的な施策は。

A

顧問は起業家であり、日本各地で取り組まれた起業家育成やまちづくりで培われた専門的な知識、広い人脈を生かした助言などをもらう。起業・創業を目指す人材の育成、イノベーション事業の創出、企業の成長に関わる施策、市内外の事業者交流による地域産業の育成、リゾートオフィス・田園都市構想のさらなる推進に取り組んでいきたい。

Q

小高直弘氏の政策アドバイザー選任後の具体的な施策は。

A

アドバイザーは、各県の政策アドバイザーを歴任し、地域の課題やまちづくりの問題等に関与してきた。その

Q

市の課題である高齢者の交通・買物、アグリテクノロジー、遠隔地医療、非常時・災害時の情報の一斉伝達、そして空飛ぶ車等、デジタル活用したプロジェクトを加え、国が推進しているデジタル田園都市国家構想の特区を目指してはどうか。

A

今は新しい社会が広がっていると思う。職員が将来像を感じながら意欲的に検討することで面白い仕事ができ、生き生きとしたプロジェクトになってほしい。



各議員の氏名の下にのQRをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になります。

通告書はこちら



無所属

黒岩 揺光



健診施設を新築すべき か選挙で民意を問え

Q

市長は30億円以上かけて健診施設を新築し、3か所で実施している健診を1か所に集約しようとしている。車が運転できない高齢者にとって施設が遠くなるのは死活問題だ。市長が選挙で公約した水道料金値下げは実現せず、公約していない建設計画を押し進めようとするのなら、市長選で民意を問うべきではないか。

A

決めるのは議会であり、民意の最たるものは議会である。健友館がある大和地域は大変優遇された地域で、1日で全ての健診を終えることができるが、他の地域では3日間かかる場合もある。こういう不均衡をなくするのが一つの理由だ。市民病院から健友館まで移動しなければならぬ医療スタッフの効率化の問題もある。市民を加えた検討委員会等でも反対の

声は上がっていない。来年の市長選まで待てば、決定的な遅れになる。

Q

民意の最たるものは選挙だ。前回の市長選で、この計画について何も言っていなかったが、この2年半で何が変わったのか。

A

選挙では、医療問題が1丁目1番地と言った。

Q

建設計画反対の声は聞いていないということだが、3月議会では、計画の進め方を理由に7人の議員が今年度の当初予算案に反対したが。

A

議会のことを言っているのではない。市長に直接言うてくる市民の声に反対はない。例えば、ごみ袋代金は、大和地域は安い。市民はこれを知らないだろう。本当の事実を伝え、市内の不均衡を是正するためだと私が説明すれば、市民も納得してくれる。



南魚みらいクラブ

吉田 光利



農地施設の長寿命化工 事費用への支援を

Q

南魚沼産コシヒカリの作付が大半を占める農地の維持管理や施設の老朽化は広範囲にわたり、深刻な状況である。予算的にも、長寿命化工事は進んでいない。ふるさと応援活用基金の活用による工事の加速化を検討すべきではないか。

A

多面的機能支払事業の広域協定から特に要望が多く上がっており、予算が不足していることは把握している。ふるさと応援活用基金の活用に向けた協議を庁内でも開始した。

Q

老朽化した用水路から田んぼへの水漏れがあり、土地改良区に相談したところ、国や県による農地耕作条件改善事業、小規模維持管理事業等があるが、受益者負担がいずれも40%以上のため、一千万円以上の負担が必要となり挫折した。

このような実情をどう捉えているか。

A

受益者負担が大きいということは認識しており、国や県に対し話をしている。大規模な改修は鋭意研究していきたい。

中高生への起業家育成 教育を進めるべきでは

Q

全国各地で中高生の起業家育成教育が進んでいる。津南中等教育学校でも、起業家育成教育に力を入れているが、当市でも取り組むべきでは。

A

現在、キャリア教育に取り組んでいるが、今後は児童生徒が主体的に考え、積極的にチャレンジする機会を与えることが必要である。起業家精神を育成するためにも、県も進めているアントレプレナーシップ（起業家精神）教育を推進していくことが重要だ。



市民クラブ

寺口友彦



無人駅コミュニティ拠点 化事業に市も協働すべき

Q

JR東日本新潟支社は
県内の無人駅コミュニティ
ティ拠点化を打ち出した。県内
の企業や新潟県へ進出予定の企
業に、駅舎や周辺の空き地を活
用した地域のにぎわい創出につ
ながる提案を受け付け始めた。
市も協働するべきではないか。

A

市内に無人駅が石打、
大沢、上越国際スキー場
前、塩沢、五日町、八色と6つあ
る。有人は六日町と浦佐の2か
所だ。現状では市として支援す
るところまでには至っていない。
市の事業とつながっている部分
については連携の必要はあると
思っている。つむぎ通りの進捗
に合わせて塩沢駅を一体的に捉
え、コミュニティ拠点化を図る
にはよい時期と思うが、JRから
この件についての話は聞いてい
ない。情報収集はするが、市か
ら主体的な関わり方はしない。

移住定住する若者の運転 免許取得費用への助成を

Q

南魚沼市を宣伝する事
業は増えているが、いざこ
の地に住むとなれば、運転免許
が必要だ。高校を卒業してこの
地に住む若者もいる。3年間この
地に住めば助成金を返還しなく
てよいやり方どうか。個人の趣
味である狩猟免許取得に助成し
ているのと同じではないか。

A

令和2年12月末で免許
取得者は3万9,000
人、人口の約7割である。移住
者への助成を行っているのは十
日町市、山形県寒河江市などが
あるが、様々な条件をつけてい
る。対象をどうするかに議論の
余地があるが、移住者への助成
については検討していきたい。
この地に住む若者が先ではない
かという考えもあるので、検討
させていただく。

市の環境政策について

Q

市民からバイオマスプ
ラスチックのごみ袋の強
度が落ちて、使いにくいという
不満が出ているが、その問題を
どう捉えているか。

A

担当課と製造業者では、
安定した品質の確保を目
指し、不良品ゼロを目的・目標
に掲げて取り組んでいる。品質
などに対する苦情の声は導入当
初よりも減ってきているが、強
度不足等によって不良品があつ
た場合は、交換対応などもして
いる。

Q

バイオマスプラスチック
のごみ袋は、以前の物
に比べて環境に対してどれほど
の物理的な効果があるか。

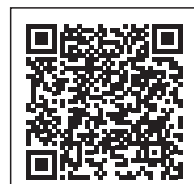
A

導入当初のバイオマス
含有率は10%だったが、
温室効果ガスの削減など、環境
に配慮した取組をさらに進める
ため、令和3年度からは、含有



未来創政会

永井拓三



率を25%に引き上げた。従来の
ごみ袋と比べた場合、焼却時に
おける二酸化炭素排出量が、年
間約48トン削減される試算と
なっている。環境負荷の軽減に
ついて一定の効果はあるものと
考えている。

Q

雪エネルギーの研究等
は約5年が経過しようと
しているが、どのような成果が
出ているか。また、市民生活に
おいて実用に至るような知見を
得られているか。

A

今は研究中である。雪
資源活用に取り組むとい
うことは新しい産業に携わる
方々の雇用創出の面も含めて、
新しい将来性が生み出せるので
はないかと思う。





各議員の氏名の下のQRをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になります。

通告書はこちら



日本共産党議員団

中沢道夫



温室効果ガス削減を目指す取組について

Q

「地方公共団体実行計画（事務事業編）」（自治体自身の計画）策定を進めるとしているが、市としての目標と計画は。

A

市の環境版の実施計画として位置づけて定めた。庁内の公共施設などの担当で構成する庁内検討会議を編成して、計画の策定を進める。

Q

温室効果ガスの大幅削減には、自治体だけでなく地域全体の取組が必要だが、「地方公共団体実行計画（区域施策編）」（市内全体の計画）の目標と計画を作成する予定は。

A

取組を強化する必要がある。実効性、効果をより高め、市役所を含めた一体的な推進のため、事務事業編と区域施策編の両者を一本化して、改めて策定することも、現在検

討している。

Q

再生可能エネルギー（再エネ）の開発は、各地でトラブルを起こしている。今後導入が進む中では、条例やガイドラインを作って対応する必要があると思うが、認識は。

A

再エネの促進と、地域に悩ましい問題であり、この地域全体としての対話や合意形成が重要になってくると考える。

Q

自治体としても、省エネや再エネの普及などに対するノウハウの蓄積や、資金面での援助などが必要になると思うが、対応は。

A

新エネルギー等普及促進事業費では、脱炭素社会の実現に向けて市民が実感できるための施策等とおとして、具体的な事業の展開につなげていく。



未来創政会

中沢一博



増え続ける空き家対策の強化を

Q

増え続ける空き家の発生を防ぐための対策は。所有者に対する適正管理の依頼や、国の除却補助制度、市独自の補助金など総合的な対策をしていく。

A

空き家が発生する前段階で具体的に空き家にならない「終活ノート」のようなものが必要では。

A

空き家発生前の啓発は非常に重要である。有効なものだと思うので検討していきたい。

Q

空き家バンク制度の推進は。

A

空き家バンクの登録については、今年から不動産業者を仲介に入れなくてもできるように改正した。これを周知した中で登録者の増加に努め

たい。

Q

長寿命化に資する大規模修繕工事を行ったマンションに対する特例措置の創設の考えは。

A

マンションの特例措置は、当市の特性があるので、ほかの自治体の動向を注視し、検討していきたい。

Q

交通不便地域の解消に向けた対策は。

A

公共交通空白地帯の解消を目的に、市内13コースで市民バスを運行している。また、地域の実態に即した公共交通ネットワークを構築するため、柘窪・岩之下地区でデマンド型の実証実験の導入に向けた準備を進めている。

不便地域解消と高齢者の足の確保について



市民クラブ

佐藤

剛



自治体DX推進で人口減少社会のまちづくりを

Q

医師・看護師不足、また医師の働き方改革も迫っている。その対応も含めオンライン診療など医療DX推進で医療を守る対応を。

A

医療資源が乏しい中で、DX推進は優先的に検討が必要だ。オンライン診療で、院内の医師が現場に処置の指示を出せるようになれば、将来的には医師不足を補う切り札の一つと考える。引き続き検討していきたい。

Q

高齢者の交通手段確保として、決まった路線や時刻表がなく予約に応じ、AIが調整するAIオンデマンド交通が既に実用化され、高齢者の通院や買物等といった活動範囲も広がっている。DX推進に併せて検討できないか。

A

栃窪・岩之下地区でドア・ツー・ドアのデマンド交通の実証実験を8月から行うが、全体的にはいろいろな部署からなるプロジェクトチームの中で考えていきたい。

Q

二地域居住を進め、にぎわう地域づくりを

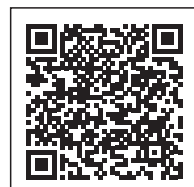
A

二地域居住などに関係人口を増やしていくことは重要だ。区域外就学は、使用教科書、学習の進度等の違いで難しい点もある。区域外就学の要望やメリットが期待できれば検討したい。



市民クラブ

梅沢道男



当市の不適切保育の現状と防止対策は

Q

国の調査では、全国で914件、本県でも8件の不適切保育が確認されたが、当市の状況は。

A

市内の保育園等での調査の結果、不適切な保育に該当する事案は認められていない。

Q

不適切保育の防止には保育士の負担軽減が重要だが、保育士の配置基準は50人以上変わっていない。特に1歳児は園児6人に1人の保育士だ。改善が必要ではないか。

A

保育現場からも改善を求める声は寄せられており、これらにこたえるべく、令和8年4月から園児4人に保育士1人の配置改善を目指す。最終的には私立保育園と同じ、園児3人に保育士1人の配置改善の達成を考えていきたい。

Q

いきなり保育士を増やすことは難しいと思うが、保育業務における関係書類の簡略化や登降園管理システム、午睡チェックセンサー等のICT技術の導入による効率化の考えはないか。

A

保育園のICT化については、国の事業を活用し、システムの導入を進める計画だ。

Q

保育園のICT化は、大きな導入効果やメリットがある。DX推進室との連携も行う中で、効果が早く現場に行きわたるよう、スピード感を持って進めるべきでは。

A

スピード感を持って取り組むことは非常に大切だ。令和6年度から導入できるものは導入し、遅くとも令和7年度頃には、システムを導入したいと、今進めている。



各議員の氏名の下のQRをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になります。

通告書はこちら

さらなる支援が必要だが、現状では市民病院の支援を増やす余裕があるとは言い難い。常勤医師の高齢化も同時に進んでおり、一時的な対応にしかない。抜本的な解決を図るためには、大胆な改革、思い切った方針転換も視野に入れざるを得ない。このままいくと、全体が倒れてしまうという状況があるのでないかと考えている。

医師の働き方改革への対応は

Q 2024年4月から医師の働き方改革が始まる。高いハードルだと感じているが、市立病院群の状況は。

A 市民病院の医師の時間外勤務は、一般病院の上限である960時間をギリギリ下回る状況だが、ゆきぐに大和病院は、市民病院からの医師の支援を受けても、年間960時間を下回る見込みが立たない。



歩む会
まき

牧野の

晶
あきら



外来だけであれば、診察日数を減らすという対応も可能だが、病院は入院患者がいるので24時間365日対応しなければならぬ。休みにすると日当直が増える形になる。一週間の営業の日数を短くすればいいという問題ではない。

「医師の働き方改革」とは

医師の勤務環境改善のための制度で、医療機関などに求められる取組の総称です。その一つに2024年4月1日から適用される予定の「医師に対する時間外労働の上限規制」があります。これが適用されると医師の時間外労働時間の上限は、原則として年960時間、月100時間未満となります。これらに違反した場合は、病院事業管理者等が罰則を受ける可能性もあります。これにより地域医療に対する影響を懸念する声もあります。

部活動の地域移行と環境整備について

Q 地域移行が始まり、どのような問題が生じているか。

A 指導者の確保、運営主体や責任の所在、費用負担、練習場所の確保、指導者の資格取得などの課題がある。

Q 部活動指導員と外部指導員の確保についての進め方は。

A いずれも学校長の推薦で確保している。

Q 強制加入の禁止がうたわれているが、部活動はこれまでの学校教育の一環という位置づけとの整合性はどうなるのか。

A 学校教育の一環ということに部活動ガイドラインを作成して、運用している。現在、



南魚みらいクラブ
くわ

桑原圭美



強制加入を行っている中学校はない。

Q 各中学校で考え方が異なる部分が生じているが、今後、統一させていくのか。

A どのように部活動を進めていくのかは校長の裁量である。

Q 地域クラブ活動の運営団体や実施主体の整備充実をどう進めていくのか。

A 地域の実情に応じた体制づくりが重要と考え、令和3年度から部活動改革検討委員会を立ち上げて協議を継続している。

Q 意欲のある教員が地域クラブとの兼職兼業を希望した場合はどうなるのか。

A 市教育委員会に申請を行い、許可を得ることで指導が可能となる。



未来創政会

おおだ だいし
大平

こう
剛



防災力強化について

Q 消防団の再編が完了しつつある中で、各集落で消防団を編成していたときの名残が抜けていないところが実情としてあると思う。一番効率よく出動できる体制を消防団・消防署幹部から整えてもらいたいと思うがどうか。

A マニュアルで定めているが、周知されていないということだと思つので、幹部を通じて、周知徹底を図つていきたい。

Q 各分団各方面隊を見回して、消防車両が適切な位置に配置できるように検討していく考えはあるのか。

A 車両が地域に偏らないように車庫の配置をしている。

市の防災情報配信はLINEとメールをご利用ください

南魚沼市では、市民向けに災害や気象情報に関する情報をLINEとメールで配信しています。ぜひご登録ください。



メール



LINE

Q

防災マップを使用して、災害種類に合わせた地域の対策マニュアルや、避難マニュアルの作成を働きかける考えは。

A

大変いい視点だと思う。自主防災組織にまずは考えてもらうことが非常に重要だと思う。危機意識を持つて自主防災組織が機能してもらわないといけない。加えて、消防団もそういう意識に立ってもらい、お互いに協力をしてやってもらう。そのような力を借りながら行政が一緒になっていくということだと思つている。

未来の里山・森林の姿をどう描くか

Q リモートセンシング技術を用いた山林の境界の明確化、地籍調査を進めるべきでは。

A 境界の明確化は、重要な課題であるが、市街地を差し置いて山林の地籍調査を先に進めることは難しい。まずは予算だと思つが、やっていきたいと考えている。

リモートセンシングとは

リモートセンシングとは、衛星等に搭載したセンサーを用いた観測方法を指す言葉です。

Q 林業の振興は、市民が参加できる森づくりや観光業等につながるなど、森林や木材の新しい価値を目指すことが重要では。

A 森林長期計画に基づき、ICTの活用による森林



南魚みらいクラブ

きよたか
うつのみや
清塚 武敏



作業の効率化、南魚沼産材のPR活動や、販路の開拓など、地域の強みを生かした森づくりに地域全体で積極的に推進していきたい。

交通弱者の移動・外出支援をどう進めていくか

Q 市民バスのデマンド実証実験後は、コースによってはデマンド交通に移行するのか。

A 高齢者は特に、ドア・ツー・ドアを求めている。議論していくときが来ていると思つ。

Q 地域住民や団体が主体で取り組む高齢者の移動仕組が必要では。

A 地域の方々为主体的に考えることは、頼もしく思つ。地域からの要望に応じて支援に取り組んでいきたい。



通告書はこちら

各議員の氏名の下のQRをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。



市民クラブ

田中 せつ子



地域防災力の向上について

Q

人口減少と高齢化で消防団員が減少し、災害時などに、本当に大丈夫かと不安の声がある。対策と取組は。

A

非常に困難なところにかけているが、消防団の負担軽減と報酬の引上げ等で処遇改善し、災害に対応する体制を維持する。

Q

部内で軽積載車や小型ポンプの配置場所の変更は可能か。

A

不可能ではないが、車の配置は地理的に偏らないように配慮しているので、現在配置している車庫に団員が集まり、出動する体制が合理的と考える。

Q

南魚沼市地域防災計画には、訓練を通じ消防団の防災意識の高揚と技術向上を

図るとあるがどう実施しているか。

A

実践的で効率的なポンプ取扱い訓練等を消防署員が講師となり実施し、知識と技術の向上に努めている。

ベーマガスタジアムの活用について

Q

ベーマガスタジアムは市民の期待に応えられているか検証が必要だ。9年間の成果と課題は。

A

シーズンを通じて利用率が高く、市民のスポーツ振興に大きく貢献している。しかし、スコアボード等の設備の課題が残っている。

Q

スポーツだけでなく、イベントの誘客施設としても活用すべきでは。

A

そうしたいと思っている。



南魚みらいクラブ

関 常幸



浦佐川西地区都市計画道路について

Q

昭和48年に1万5千人の大和町の人口が3万人になると想定した、大和町都市計画が決定した。

平成16年の合併にあたり、浦佐地区では、大和町長に都市計画の見直しを答申したが、現在、南魚沼市都市計画マスタープランには、そのままでの計画が載っている。その見直しについて市長の見解を問う。

A

浦佐地区については、より具体的な検討が必要ということで保留になっていたが、地元要望も強く、令和2年度から県と見直し作業を進めている。地元が求める都市計画が告示となるように手続を進めたいと考えている。

只見線浦佐駅発着について

Q

新たな交流人口を増やす観点から関東方面ではない、新たなところから人の流れをつくるために、只見線の浦佐駅発着を推進する期成同盟会を組織することが第一歩と思うが。

A

こういうものについて、も、市も当然であるが、観光等の現場からそういう動きをつくるうではないかという機運をまず盛り上げてきてもらいたいというのが率直な気持ちだ。



一般質問は質問順で掲載しています。

Q&Aは一部のみ掲載しています。

各議員の氏名の下にのQRをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。

一

般

質

問

一般質問とは・・・議員が市の行政全般について、執行機関に対して所見を求め、疑義を問いたですもの。



日本共産党議員団

川辺きのい



今後の住民健診及び地域医療の方向性について

Q

医師不足をカバーする上でも住民健診の役割は大きいですが、身近なところで健診を受けたいと望む市民も多い。市民全員から健診を受けてもらうために、移動健診や送迎体制を充実させる考えは。

A

受診者を増やすために、健診の重要性を周知する。また、本人に合った検査を選択できるようにするなど、受診環境を整備することで受診者の増加につなげたい。送迎については検討している。巡回健診の実施は難しい。

Q

ゆきぐに大和病院を移転新築する計画になっているが、必ず実行できるのか。日程的な見通しは。

A

市民病院の経営状況を分析の上、令和6年度に最終的な判断をする。

マイナンバーカードと住民福祉について

Q

マイナンバーカードをめぐる様々なトラブルが報道されているが、どのような対応をしようとしているのか。

A

システム上のトラブルなどが報道されているが、大きな部分では、今後の住民福祉の向上に資するものであり、制度運用の責任は国にある。

Q

マイナ保険証と保険証廃止は見切り発車と言わざるを得ない。保険証廃止までの1年間に、廃止に伴う住民の不利益、困難をどうカバーするのかを真剣に考える必要があると思うが、認識は。

A

制度が決まっただけでなく、具体的にどうしていくのかがまだ見えていない。最新の情報を注視しながら、市民サービスの提供に努めたい。



歩む会

勝又貞夫



ドライブレコーダーの設置は進んでいるか

Q

通学通園用のバスなど、公用車にはドライブレコーダーを設置するよう、その提案を含めて一般質問を繰り返してきたが、現在の設置状況はどうか。

A

令和元年9月時点では、市の公用車のうちドライブレコーダーが取り付けられているのは、バス8台と普通車5台であった。現在は、通学通園用バス32台中22台、普通車等の公用車は144台中16台となっている。今後、全ての車両に普及が進んでいくと考えている。

Q

通学通園用のバスには残らずドライブレコーダーを設置するべきと思う。将来的には全ての公用車にはドライブレコーダーを設置するべきだ。今後の市の考え方はどうか。



公用車にドライブレコーダー設置を

A

ドライブレコーダーは急速に普及し、搭載は一般的になりつつある。ドライブレコーダーの映像は、あり運転や事故などの状況を客観的に判断する材料として有効に用いられている。今後も公用車へのドライブレコーダーの整備を進めたい。少なくとも学校関係などの車両については、早急に整備するべきと感じた。これは予算とは別の問題だと思う。優先的に検討を開始したい。

令和
4年度

南魚沼市議会政務活動費収支一覧

政務活動費は、議員の調査研究などの活動に必要な経費の一部として市から交付されるものです。南魚沼市では、議員1人当たり月額1万7,000円を半年ごとに会派（無所属の場合は議員個人）に交付しています。令和4年度に政務活動費がどのように使われたか、お知らせします。

会 派 名	南魚みらいクラブ (8名)	歩む会 (4名)	市民クラブ (4名)	未来創政会 (3名)	日本共産党議員団 (2名)	黒岩揺光	計 (22名)
交 付 額	1,632,000	816,000	816,000	612,000	408,000	204,000	4,488,000
支 出							
調査研究費	1,494,799	443,417	143,790	450,721	0	0	2,532,727
研 修 費	176,910	0	185,130	0	0	0	362,040
広 報 費	0	0	160,910	0	416,249	260,700	837,859
広 聴 費	0	0	0	0	0	0	0
要請・陳情活動費	0	0	0	0	0	0	0
会 議 費	0	0	0	0	0	0	0
資料作成費	0	0	0	0	0	0	0
資料購入費	0	0	0	0	0	0	0
人 件 費	0	0	0	0	0	0	0
事 務 所 費	0	0	0	0	0	0	0
計	1,671,709	443,417	489,830	450,721	416,249	260,700	3,732,626
返 還 額	0	372,583	326,170	161,279	0	0	860,032

会 派 名	内 容
南魚みらいクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ●研修 令和4年5月9日～10日 8名参加 市町村議会議員特別セミナー：地域経済の行方と地方創生、アフターコロナとSDGsのまちづくり、地方議会改革の進め方、「共存」から「共生」へー外国人住民を交えた地域づくり ●視察 令和4年8月3日～5日 7名参加（歩む会と合同） 上士幌町：（株）生涯のまち かみしほろについて 帯広市：フードバレーについて、事業創発拠点「LAND」について ●視察 令和5年2月8日～10日 8名参加 京都市：小中一貫校「京都市立凌風学園」について 上勝町：廃校施設を活用した町営貸事務所と賃貸住宅について
歩む会	<ul style="list-style-type: none"> ●視察 令和4年8月3日～5日 1名参加（南魚みらいクラブと合同） 上士幌町：（株）生涯のまち かみしほろについて 帯広市：フードバレーについて、事業創発拠点「LAND」について ●視察 令和5年2月8日～10日 4名参加 姫路市：AI活用について 小野市：行政経営について 綾部市：空家活用定住支援事業について
市民クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ●視察 令和4年7月12日～13日 4名参加 上越市：上越市クリーンセンター整備について 妙高市：ゼロカーボンパークの取組について 川崎市：森林環境譲与税を活用した取組について ●研修 令和5年2月15日 4名参加 地方議員研修会のセミナー研修：子育て世帯の「子育ての悩み」と行政支援への「不満」 ●会派広報誌「広報市民クラブ」発行（第14号）
未来創政会	<ul style="list-style-type: none"> ●視察 令和4年10月21日～22日 3名参加 豊橋市：バイオマス活用センターについて、道の駅来場者数増加の取組について ●視察 令和5年2月6日～7日 3名参加 品川区：品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」について 名護市：小中一貫教育について 読谷村：高齢者の健康寿命に関する取組について ●視察 令和5年3月23日 3名参加 新潟県：新潟県動物愛護センターの概要と取組について
日本共産党議員団	●会派広報紙「市議会報告」発行（第64号・第65号・第66号・第67号）
黒岩揺光	●議会報告の発行（2022年5月・2022年7月）

令和4年度会派視察報告書はウェブサイトでご覧いただけます。



9月 定例会 予告

次の定例会は9月4日～9月22日の予定です。

9月 議会 カレンダー (予定)

9月4日	月	本会議	14日	木	本会議（決算審議）
5日	火	本会議	15日	金	本会議（決算審議）
6日	水	社会厚生委員会	16日	土	休会
7日	木	産業建設委員会	17日	日	休会
8日	金	総務文教委員会	18日	月	休会
9日	土	休会	19日	火	本会議（決算審議）
10日	日	休会	20日	水	本会議（決算審議）
11日	月	一般質問	21日	木	予備日
12日	火	一般質問	22日	金	本会議
13日	水	一般質問			

傍聴のご案内

本会議は、9時30分から市役所本庁舎3階議場で行います。どなたでも傍聴できます（ただし、児童の傍聴には議長の許可が必要となります）。詳しくは、議会事務局（☎773-6650）までお問い合わせください。

議会傍聴 に来ませんか

定例会は、毎年3月、6月、9月、12月に行われます。詳しい日程は、市報または市ウェブサイトで確認いただくか、議会事務局にお問い合わせください。

1



市役所本庁舎の3階議場入口に「傍聴受付簿」があります。住所、氏名、年齢を記入し、「傍聴受付箱」に入れてください。

2



傍聴入口から入ってください。携帯電話や電子機器の電源は切りましょう。

3



空いている席に座ってください。傍聴席での録音や撮影、おしゃべりなどはできません。

事前の予約は必要ありません。ぜひ、生の議会を見に来てください。★お待ちしております★

議会だよりに対するご意見、ご感想をお待ちしております！

宛先：議会事務局（☎773-6650）または QR をご利用ください。➡



議会広報編集特別委員

委員長 勝又 貞夫
副委員長 黒岩 揺光
委員 川辺きのい
委員 大平 剛
委員 目黒 哲也
委員 梅沢 道男
委員 塩川 裕紀

編集後記

カリカリとガリガリ、キリキリとギリギリ、この違いを外国の方は解らないといいます。日本人はこの言葉を使い分けます。

日本民族は触覚、感覚を大事にする民族で、擬態語「オノマトペ」を大いに発達させてきました。その日本人にとって、コロナ禍の人の関わりを抑制した生活は、大変なストレスだったのではないのでしょうか。

いよいよ、いろんなことを肌で感じる事ができます。さあ、暑い夏です！たくさん思い出を作りましょう。

塩川 裕紀